



LINE QR コード

令和5年 12月 第467号

浄恩寺同朋会報

電話 052-881-8474

「御正忌 報恩講」

穏やかな日に恵まれ、玄関や窓を開け放ちお勤めできました。

まずは、お骨箱をご本尊前に飾り、ご焼香をしていただき勤行。

「正信偈」のお勤めは十種類ありますが、今回は「真四句目下五淘」（しんしくめさがりいつつゆり）という、報恩講ならではの丁寧なお勤めです。

声の音程がいつもより高く、独特な節があります。

お勤め後の「御文」も、親鸞の経歴や報恩講の意義を綴った「御俗姓」という長いお手紙です。

そして、荒山 優氏の法話を聴聞致しました。

日頃の私たちは、「本末転倒の暮らしぶりをしていないのでは？」この問題提起：でお話は始まりました。

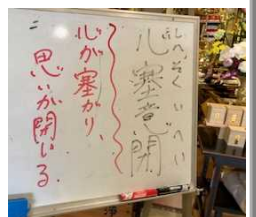
こんな生き方を親鸞さんは「流転」という言葉で表現。その意味を説かれ、私たちの日常生活を「空気を読まざるを得ない」生き苦しい現実があることに言及されました。お釈迦様は、阿弥陀経で語る蓮華の輝き、ありのままに生きるこの大切さを説かれて「心塞意閉」を引用されて、生き苦しさの原因を解説されました。



時に誰にも相談できず、心を閉ざす深い苦しみについて…これが「心塞意閉」

だからこそ、大切な人の苦しみに耳や目を傾けながら生きる尊さを切に述べられました。親友の深い悩みを通して、切々と語られた多くの聴聞者が、目頭を熱くされました。

感謝



『寒くなつて』

ふくもたらも、暖かい場所では忙しくても、か。私には散歩できな。が、鶴公園散歩は欠か。せ。ない日課です。姿をなかなかせな。た。「翡翠」を二度見ま。増え。た。も綺麗で宝石のよう。な羽の色でした。「鴨」も。十二月から、南への渡りを前に羽を休めているようです。チャンスがあれば、ナイトハイクも楽しみたいと思。います。ふくた。ら。は、喜ばないかも。



今年も浄恩寺をお支えいただき、ありがとうございます。不穏な世界情勢、私たちの健康不安も、まだまだ続きそうです。が、じゅうぶんご自愛いただき、健やかな新年をお迎えいただくことを念願しております。南無阿弥陀仏